

2月定例活動・  
雑木林の達人養成講座(第5回)

## アカマツ林再生プロジェクト



毎年2月のルーティンワークとなった「アカマツ林再生プロジェクト」、回を重ねること6回目となりました。2月24日、今回は天白生涯学習センター講座「雑木林の達人養成講座」第5回として、受講者も加えて約40名の参加者で久しぶりに大人数での活動となりました。

午前中は、相生小学校での講座。講師に名市大の岡村穰教授を迎え、土壌を中心に松林の成り立ちを解りやすく説明していただきました。普段は地上の樹木しか見ていないことが多い私達にとっては、地面の下からの発想は非常に新鮮で、森を観る目がまた1つ増えました。

午後は、現地での活動。オアシスの森西側の「アカマツ再生プロジェクト林」に移動し植生管理を行いました。常緑

樹の除伐、チェーンソーでの枯れ松処理を行うとともに、中心となる松の根の張り方を観察しました。実生から育った苗もずいぶん成長し、中には一人前の松に近くなったものもありました。アカマツ林が着実に蘇ってきていることが実感できた講座の一日でした。

(永田 修二)



▲ 苗の生育を促すため日照を遮る常緑樹を除伐

天白もりのフォーラム・フィールドサーキット

## アカマツ林の整備



「天白もりのフォーラム」は天白区内で森や川など自然環境に対して活動する10団体と行政機関が連帯する組織です。

今年度は区役所の募集で集まった人たちを天白区内のフィールドに案内するフィールドサーキットを開催し、相生山はその最終回第7回のイベントとなりました。2月25日(日)に、子どもを中心とした家族連れと会員約30名で前日に続きアカマツ林の整備を行いました。



▶ 森の親手入れに取り

午前中だけの活動でしたが、手入れを終えた森はアカマツの実生が並びさっぱりとした景観となり、参加者にはアカマツの成長を確認するために、再度森を訪れてくださいとお願いしました。

(大館 学)

## シリーズ『森の住人たち』⑪

～ヨタカ(夜鷹)～

ヨタカ科 全長 29cm

環境 山地から低地など



Iさんの着信音が鳴った。

「えっ、どういうこと? Sさんからなんだけど、"ヨタカはツケン"って、何これ?」怪訝な顔をして画面を示す。

確かに"ヨタカハツケン"とある。うん~? 何だろう? その言葉をつぶやいてみる。

「わかった! "ヨタカ、発見!"ということよ!」

「キョキョキョキョ...」という声はよく耳にするが、夜行性のため実際にその姿を目にすることは、稀だ。

「どこだろう、行こ!」

のんびりムードが一変する。その日は観察会の下見のためのミーティングをし

ていた。Sさんは、先に相生山緑地に行っていて、ヨタカを出会ったのだ。

現地に駆けつけると、Sさんが手招きしている。

「いる、いる」ヨタカは、アカマツの枝に平行に止まり目を閉じていた。ゆっくり近づき、じっくり観察する。人の気配を察知したヨタカが、時折薄目を開ける。メンバーと小声で会話をしながら、観察をし、また写真撮影をする。と、ヨタカがさっと飛び去った。その姿を追いながら、相生山緑地の森にいつまでも飛び交い続けることを願わずにはいられなかった。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)

出典「フィールドガイド日本の野鳥」(財)日本野鳥の会発行